九州フィナンシャルグループ
Kyushu FG

ミニディスクロージャー誌
兼 営業のご報告

平成28年４月１日 ► 平成29年３月31日

PICK UP

熊本を『食×観光×IT』で活性化

鹿児島の農業を守る「春一番」

うるおいある未来のために。
肥後銀行
HigoBank

はじめよう、あたらしいコト。
鹿児島銀行
Kagoshima Bank

Greeting

ごあいさつ

代表取締役会長
甲斐 隆博

代表取締役社長
上村 基宏

平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申しあげます。

九州フィナンシャルグループは、おかげさまで、昨年10月に1周年を迎えました。これもひとえに、皆様方のご支援の賜物と深く感謝申しあげます。

さて、平成28年度の国内経済は、世界経済の緩やかな回復を受け、輸出・生産が持ち直し、企業収益が上向く動きがみられる中、雇用情勢・所得環境が改善するなど緩やかな回復基調が続きました。

一方、昨年2月から始まったマイナス金利政策、金融再編加速化の動き、さらには、英国のEU離脱や米国の新政権発足など、当社グループをとりまく金融経済環境には大きな変化がありました。

このような中、当社は第1次グループ中期経営計画の基本方針である「お客様への最適かつ最良のサービス提供に向けた経営基盤構築」に向け、「総合金融力」、「ブランド力」、「組織運営力」の3つの経営基盤を軸に着実に統合効果を創出してまいりました。

本計画の最終年度である本年度は、平成30年4月からの次期中期経営計画「融合ステージ」に向け、肥後銀行グループと鹿児島銀行グループの知見やノウハウを結集し、地方創生の支援等に努めるとともに、グループ体質を強化し、さらなる企業価値の向上を図ってまいります。

また、当社グループの地元である熊本に甚大な被害をもたらした熊本地震発生から1年が経過しましたが、当社は今後も「創造的復興」に向け、グループ一体となり継続的な支援に取り組んでまいります。

引き続き、倍旧のご支援ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申しあげます。

平成29年6月吉日

株式会社九州フィナンシャルグループ

Management philosophy

グループ経営理念

わたしたち九州フィナンシャルグループは、持続可能な成長の実現に向け、
以下の3つの理念を柱として、みなさまから真に愛される総合金融グループを目指します。

1. お客様の信頼と期待に応え、最適かつ最良の総合金融サービスを提供します。
2. 地域とともに成長し、活力あふれる地域社会の実現に積極的に貢献します。
3. 豊かな創造性と自由闊達な組織風土を育み、より良い未来へ向かって挑戦し続けます。

Company Profile

会社概要 （平成29年3月末現在）

九州フィナンシャルグループ
Kyushu FG

株式会社 九州フィナンシャルグループ

本店所在地（登記上の住所）	鹿児島市金生町6番6号
本社所在地（本社機能）	熊本市中央区練兵町1番地
代表者	代表取締役会長 甲斐 隆博（肥後銀行 取締役頭取） 代表取締役社長 上村 基宏（鹿児島銀行 取締役頭取）
資本金	360億円
設立日	平成27年10月1日
上場証券取引所	東京証券取引所市場第一部 福岡証券取引所本則市場
証券コード	7180

うるおいある未来のために。
肥後銀行
HigoBank

株式会社 肥後銀行

創立	大正14年7月25日
資本金	181億円
本店所在地	熊本市中央区練兵町1番地
店舗数	123か店 本支店 118・出張所 4・海外駐在員事務所1
従業員	2,236人

はじめよう、あたらしいコト。
鹿児島銀行
Kagoshima Bank

株式会社 鹿児島銀行

創立	明治12年10月6日
資本金	181億円
本店所在地	鹿児島市金生町6番6号
店舗数	152か店 本支店 113・出張所 11・代理店 27・ 海外駐在員事務所 1
従業員	2,192人

PICK UP

熊本を『食×観光×IT』で活性化

人口減少や少子高齢化などの構造的課題を抱える地方にとって、重要な命題である「地方創生」。
その実現に向け肥後銀行は、平成28年12月、観光分野から熊本の活性化を推進する会社
「株式会社くまもとDMC」を共同で設立しました。

「創造的復興」「地方創生」の旗振り役

肥後銀行では、平成２７年７月、地方創生の実現を推進する「地域振興部」を立ち上げ、地域活性化に繋がるさまざまな事業に取り組んできました。しかし、昨年の熊本地震により、観光、農業、製造業をはじめとする産業や、道路・鉄道などのインフラに甚大な被害を受け、その道のりはより険しいものとなりました。そこで、熊本の創造的復興に向け、また地方創生の旗振り役として、平成２８年１２月、熊本県との共同出資で「株式会社くまもとDMC」を設立しました。この「くまもとDMC」は、熊本の重要な産業である観光分野において、専門家のノウハウやビッグデータを活用したマーケティング機能を駆使し、熊本の活性化を推進する会社です。

【１】熊本地震で被害を受けた南阿蘇村の視察【２】食品工場を取材する社員【３】社内会議で活発な意見交換をする社員たち【４】地域の「食」、「自然」、「文化・歴史」を体感する「ガストロノミーウォーキング」に参加【５】事業説明会で挨拶する小山薫堂氏（社外取締役）

ITを活用した観光振興

「くまもとDMC」では、宿泊施設、交通事業者、飲食店などの観光関連事業者をコーディネートし、各事業者の収益機会拡大を図ります。その主な手法が、ビッグデータを活用した調査・分析・マーケティング機能です。この機能を駆使し、消費者ニーズの把握や地域課題を見える化することにより、熊本の観光振興につなげます。そしてこの会社を支えるべく、銀行のマネジメントノウハウを注入するため、肥後銀行から２名、鹿児島銀行から１名の行員が出向しています。

設立記者会見

熊本再発見メディア「おるとくまもと」

「おるとくまもと」は、「くまもとDMC」が運営するインターネットメディアです。「くまもとDMC」のスタッフ（キュレーター）が実際に足を運んで取材したコンテンツを公開しており、まだよく知られていない熊本の各地域の文化・観光情報、飲食店や地域物産などの魅力ある情報を国内外に発信しています。

ホームページ画面

会社概要

社　名：株式会社くまもとDMC
所在地：熊本市中央区上通町3番31号
設立日：平成28年12月9日
代表者：村田 信一
事業内容：マーケティング、リサーチ、コンサルティング事業、広告事業、小売業、旅行事業、宿泊事業、人材派遣事業　他
資 本 金：5,000万円

くまもとDMC
KUMAMOTO DMC Co.,Ltd.

鹿児島の農業を守る「春一番」

鹿児島の基幹産業である「農業」。しかし、後継者不足や耕作放棄地の増加など農業を取り巻く課題は深刻なものです。そこで鹿児島銀行は、安心して農業を後継できる仕組みづくりを実現させるため、平成28年9月30日、農業法人「株式会社春一番」を共同設立しました。

「農業」を若者にとって魅力ある職場にしたい

「農業」における従事者の減少や高齢化、後継者不足等は大きな課題となっています。その課題解決のため、地元業者などとの共同出資により設立したのが「株式会社春一番」です。南九州の温暖な気候を生かし、全国に先駆けて出荷したいという思いを込めて社名を「春一番」としました。春一番が目指す農業は、従来とは異なり、効率的で生産性・収益性の高い農業です。最新技術の導入により効率化を図り、栽培環境、技術等を"データ化（見える化）"することで栽培技術の継承に繋げます。また、安定した給与や週休制の導入など福利厚生も充実させ、「農業」を若者にとって魅力ある職場にし、農業従事者を増やしたいと考えています。

社員は全員、農業未経験

春一番の社員は全員鹿児島銀行からの出向者で、社長はこれまで営業店の支店長を務めていました。元銀行の社員は全員が農業未経験者ですので、地元の農業大学校でセミナーを受けたり、県内外の農家を訪問したりして農業のノウハウを学んでいます。また、銀行員生活で培ったスキルも役立てています。毎日、営農日誌として苗の生育状態や肥料の量などをパソコンに記録をとり、データとして蓄積しています。

【1】春一番で収穫された玉ねぎ【2】出荷式テープカット（左から４番目：吉満社長）【3】営農日誌をパソコンに記録する社員【4】玉ねぎ圃場で収穫作業をする吉満社長（中央）と社員【5】収穫した玉ねぎの大きさを確認する吉満社長（右）と社員

初出荷は玉ねぎ４４０ｋｇ農業の厳しさを実感

春一番が初めて取り組んだのが「玉ねぎ」です。平成２８年１０月に、鹿児島県日置市内の約3,０００平方メートルの圃場に玉ねぎの苗５万本弱を定植しました。しかし、苗の生育不良や定植深度のばらつきなどが原因で２割程度が定着しませんでした。無事に迎えた平成２９年３月６日の出荷式で吉満社長は、「農業の厳しさを実感しました。農業で儲けを出すのは本当に大変です。無事に初出荷を迎えることができて今は一安心しているところです。」と挨拶。苦労を重ねた一方で、今回収穫した春一番の玉ねぎは、「柔らかく甘みの強い良いものができた。」と好評価をいただきました。

第2弾は「オクラ」に挑戦

玉ねぎは無事収穫を終え、早速第２弾としてオクラの栽培に取り組んでいます。平成２９年４月に種蒔きを実施し、現在、夏の収穫に向けて試行錯誤しているところです。

今後も、様々な"春一番"を全国にお届けするため、私たちの挑戦は続いていきます。

吉満隆裕社長

会社概要

社　名：株式会社春一番
所在地：日置市東市来町美山 2095 番地
設立日：平成 28 年９月 30 日
代表者：吉満 隆裕
事業内容：農産物の生産、加工および販売、農業に関する各種調査、企画、研究、システム開発
資 本 金：5,000 万円

うるおいある未来のために。
肥後銀行
HigoBank

創造的復興に向けた取り組みを加速

肥後銀行では、“ふるさと熊本”の創造的復興に向け、各種復興セミナーの開催や震災復興ハンドブック「熊本地震の税務」の配付、各種ローンやファンドでのファイナンス対応など、さまざまな取り組みを行っています。平成29年4月には、災害時の生活用水に役立てるための「防災井戸」を県内10か所に設置しました。

「地方創生に関する包括的連携協定」を締結

肥後銀行では、地方創生の分野で積極的に地方自治体と協力・協働し、地域の発展や観光振興などの地域活性化に取り組んでいます。これまでに熊本市、益城町と「地方創生に関する包括的連携協定」を締結しており、平成28年度は阿蘇市、宇城市と協定を結びました。

～私たちの取り組み～

肥後銀行と鹿児島銀行は、「地域を元気にしたい」という
１つの志を持って様々なことに取り組んでいます。

地域文化発信拠点「肥後の里山ギャラリー」

平成27年5月に、肥後銀行本店1階に開館した「肥後の里山ギャラリー」では、平成28年3月末までに、熊本の文化的所産や自然風土などに関する12回の展覧会を開催しました。平成28年度は、「冨重寫眞所展」をはじめ年間6回の展覧会を開催し、約21,000人のお客さまにご来場いただきました。

地元企業と学生との意見交換会の実施

県外への人口流出に伴う地元企業の人材不足など、地域の課題解決に向けた地方創生への取り組みの一環として、鹿児島大学で地元企業と学生との意見交換会を開催しました。開催にあたっては、県内大学8校より33名の学生が鹿児島銀行のインターンシップに参加し、案内チラシの作成などを協働企画しました。

鹿児島県産品の販路拡大及び観光促進に向けた連携協定締結

鹿児島アグリ&フード金融協議会（会長　上村基宏）は、鹿児島県、ヤマトホールディングス株式会社、株式会社ＡＮＡ総合研究所と鹿児島県産品の販路拡大及び観光促進に向けた連携協定を締結しました。本協定参画機関が相互に連携することで地域経済の活性化を図ります。

新ブランドの導入決定

肥後銀行との経営統合（平成27年10月）、これから迎える創業140周年、新本店ビルの完成など、“変革”の時期を迎えている鹿児島銀行は、今後とも末永くお客様に親しまれ愛される銀行であり続けるという決意を新たに、新ブランドの導入を決定しました。同時にオリジナルキャラクター「しろどん」も採用しました。

（平成29年4月1日より使用開始）

はじめよう、あたらしいコト。
鹿児島銀行
Kagoshima Bank

Kumamoto

Kagoshima

財務ハイライト（平成29年3月期）

九州フィナンシャルグループ

経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益
21,532百万円	14,602百万円

営業の概況

九州フィナンシャルグループ（KFG）連結

（単位：百万円）

科目	平成29年3月期	前期比	平成28年3月期
経常収益	172,216	40,992	131,224
経常利益	21,532	△4,074	25,606
親会社株主に帰属する当期純利益	14,602	△93,868	108,471
自己資本比率	12.38%	△0.49%	12.87%

POINT

平成29年3月期の業績につきましては、経常収益は1,722億16百万円、経常利益は215億32百万円となりました。親会社株主に帰属する当期純利益は、146億2百万円となりました。

前期の親会社株主に帰属する当期純利益には、経営統合に伴う「負ののれん発生益」884億87百万円を含んでいます。

2行合算（肥後銀行・鹿児島銀行）

（単位：百万円）

科目	2行合算		
	平成29年3月期	前期比	平成28年3月期
経常収益	149,843	2,155	147,687
業務粗利益	103,769	△5,573	109,342
うち資金利益	92,464	△992	93,457
経費（除く臨時処理分）	74,046	△1,482	75,529
コア業務純益	29,815	△1,988	31,803
業務純益	28,246	△8,229	36,476
経常利益	28,524	△10,760	39,285
当期純利益	19,602	△5,923	25,525

（単位：億円）

総預金残高	82,976	4,602	78,373
貸出金残高	61,111	4,158	56,953
預り資産残高	10,872	490	10,381

（注）総預金は、預金と譲渡性預金の合算であります。

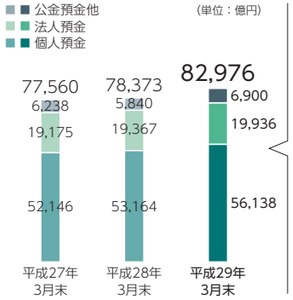
POINT

業務粗利益につきましては、資金利益及び役務取引等利益の減少に加え、国債等債券損益の減少によりその他業務利益も減少したことなどから、前期比55億73百万円減少しました。

業務純益につきましては、経費は減少しましたが、一般貸倒引当金繰入額が増加したことから、前期比82億29百万円減少しました。

経常利益につきましては、業務純益の減少に加えて、株式等関係損益が減少したことなどにより臨時損益が減少したことから、前期比107億60百万円減少しました。また、当期純利益についても、前期比59億23百万円減少しました。

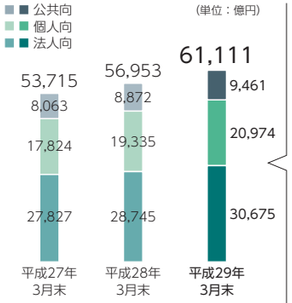
総預金の状況（2行合算）



POINT

両行とも増加しており、2行合算で、平成28年3月末比4,602億円増加（増加率5.87％）し、期末残高は8兆2,976億円となりました。とくに肥後銀行で、震災に伴う保険金等の流入により増加が顕著になっています。

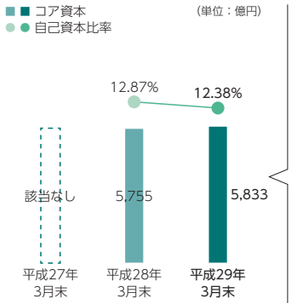
貸出金の状況（2行合算）



POINT

肥後銀行では、震災の復旧・復興資金の需要もあり法人向け貸出を中心に、鹿児島銀行では個人向け貸出を中心に、ともに増加しております。2行合算で、平成28年3月末比4,158億円増加（増加率7.30％）し、期末残高は6兆1,111億円となりました。

自己資本比率の状況（KFG連結）

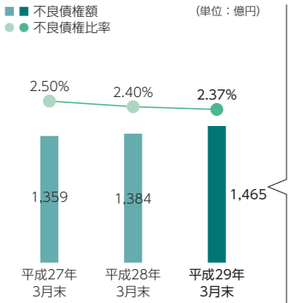


POINT

バーゼルⅢに基づく国内基準により、肥後銀行11.52％、鹿児島銀行11.20％、KFG連結ベース12.38％となりました。比率が低下した理由は、両行とも貸出金が増加したため、分母のリスク・アセット等が増加したことによるものです。

（KFG連結ベースの自己資本比率は、経営統合時の会計処理において、鹿児島銀行の有価証券評価差額金等が「負ののれん発生益」を通じて自己資本に取り込まれたため両行の自己資本比率より上昇しております。）

金融再生法開示債権の状況（2行合算）



※肥後銀行は平成28年3月末より部分直接償却は実施しておりません。
また、鹿児島銀行は部分直接償却は実施しておりません。

POINT

肥後銀行667億円、鹿児島銀行798億円、2行合算で平成28年3月末比80億円増加し、1,465億円となりました。

金融再生法開示債権の総与信に占める割合、いわゆる不良債権比率は、肥後銀行2.16％、鹿児島銀行2.59％、2行合算で平成28年3月末比0.03％低下し、2.37％となりました。分子の不良債権額は増加しましたが、分母の総与信額増加の影響が大きく、比率は低下しております。

格付（平成29年3月末現在）

九州フィナンシャルグループ

格付投資情報センター（R&I）【長期格付】
A+

肥後銀行

S&Pグローバル・レーティング・ジャパン㈱【長期格付】	格付投資情報センター（R&I）【長期格付】
A−	A+

鹿児島銀行

S&Pグローバル・レーティング・ジャパン㈱【長期格付】	格付投資情報センター（R&I）【長期格付】
A−	A+

財務ハイライト（平成29年3月期 単体）

肥後銀行

うるおいある未来のために。
HigoBank

経常利益 12,364百万円

当期純利益 8,759百万円

損益の状況

（単位：百万円）

科 目	平成29年3月期	前期比	平成28年3月期
経常収益	76,920	272	76,647
業務粗利益	54,273	△1,141	55,415
経費	39,383	△433	39,817
コア業務純益	12,870	△1,086	13,957
業務純益	15,483	△115	15,598
経常利益	12,364	△9,056	21,420
当期純利益	8,759	△5,218	13,977

POINT

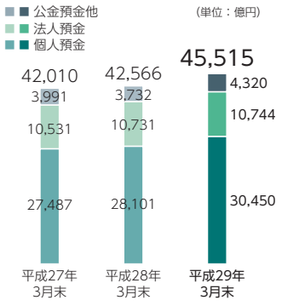
肥後銀行では、経常収益は3期連続の増収、経常利益は3期ぶりの減益、当期純利益は5期ぶりの減益となりました。

業務粗利益は、マイナス金利の影響による資金利益の減少や役務取引等利益の減少により、前期比11億41百万円減少しました。

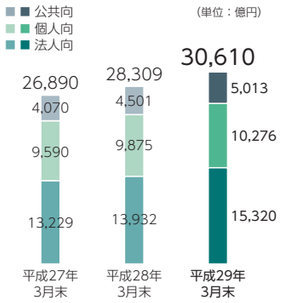
業務純益は、経費の減少や一般貸倒引当金の戻入はありましたが、業務粗利益が減少したことにより、前期比1億15百万円減少しました。

経常利益は、熊本地震の影響による不良債権処理額の増加や株式等関係損益の減少等により、前期比90億56百万円減少し123億64百万円、当期純利益は、前期比52億18百万円減少し、87億59百万円となりました。

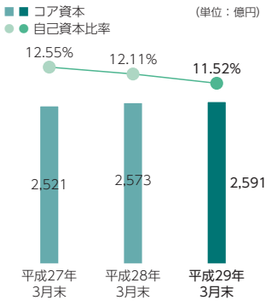
総預金の状況



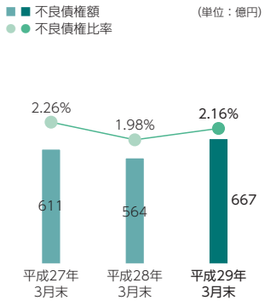
貸出金の状況



自己資本比率の状況



金融再生法開示債権の状況



※平成28年3月末より部分直接償却は実施しておりません。

鹿児島銀行

はじめよう、あたらしいコト。
Kagoshima Bank

経常利益 16,160百万円

当期純利益 10,842百万円

損益の状況

（単位：百万円）

科 目	平成29年3月期	前期比	平成28年3月期
経常収益	72,922	1,882	71,039
業務粗利益	49,495	△4,431	53,927
経費	34,663	△1,048	35,712
コア業務純益	16,944	△902	17,846
業務純益	12,763	△8,114	20,878
経常利益	16,160	△1,704	17,864
当期純利益	10,842	△704	11,547

POINT

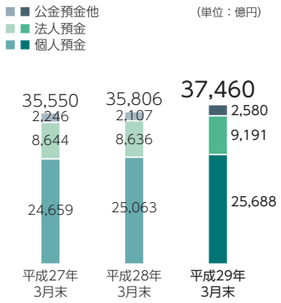
鹿児島銀行では、経常収益は2期連続の増収、経常利益は2期連続の減益、当期純利益は4期ぶりの減益となりました。

業務粗利益は、資金利益や役務等利益の減少に加え、国債等債券損益の減少により、前期比44億31百万円減少しました。

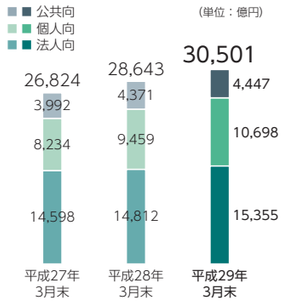
業務純益は、経費は減少しましたが、一般貸倒引当金繰入額が増加したことから、前期比81億14百万円減少しました。

経常利益は、不良債権処理額の減少等により臨時損益が64億10百万円増加しましたが、業務純益の減少の要因が大きく、前期比17億4百万円減少し161億60百万円、当期純利益は、前期比7億4百万円減少し108億42百万円となりました。

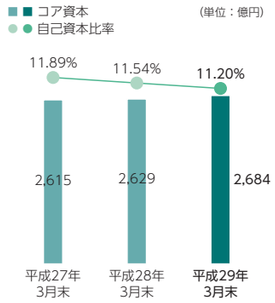
総預金の状況



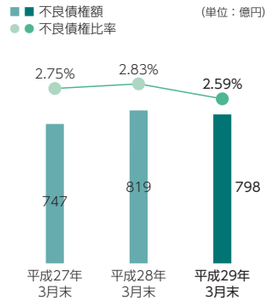
貸出金の状況



自己資本比率の状況

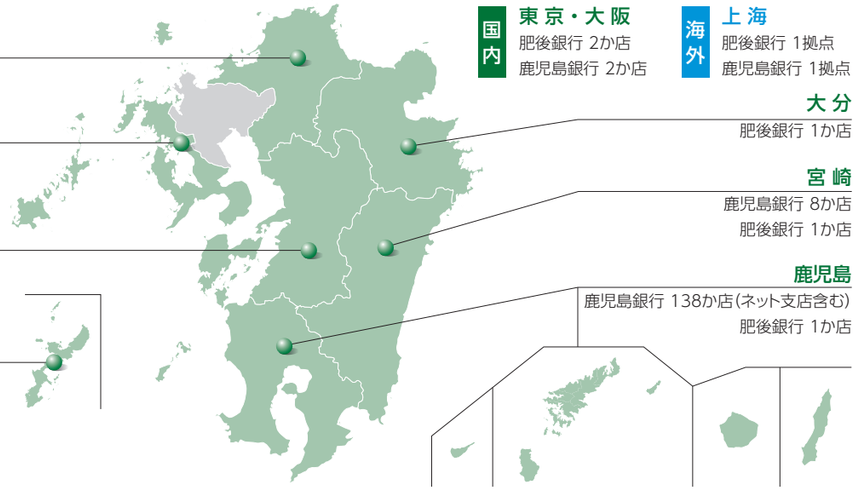


金融再生法開示債権の状況



※部分直接償却は実施しておりません。

九州フィナンシャルグループのネットワーク（平成29年3月末現在）



福岡
肥後銀行　5か店
鹿児島銀行　1か店

長崎
肥後銀行　1か店

熊本
肥後銀行　111か店
鹿児島銀行　1か店

沖縄
鹿児島銀行　1か店

国内
東京・大阪
肥後銀行 2か店
鹿児島銀行 2か店

海外
上海
肥後銀行 1拠点
鹿児島銀行 1拠点

大分
肥後銀行 1か店

宮崎
鹿児島銀行 8か店
肥後銀行 1か店

鹿児島
鹿児島銀行 138か店（ネット支店含む）
肥後銀行 1か店

ホームページのご案内

最新IR情報やニュースリリース等は
ホームページからご覧いただけます。

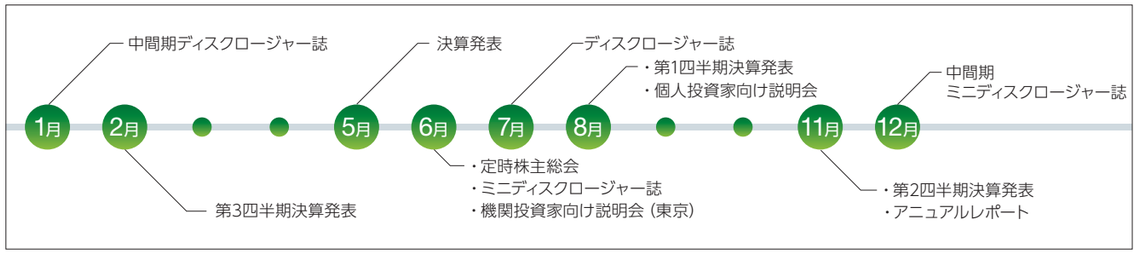
九州フィナンシャルグループ

https://www.kyushu-fg.co.jp/

TOP

IR

IRカレンダー



株主の皆様へ

株式数および株主数（平成29年3月31日現在）

発行済株式総数（普通株式）	463,375,978株
株主数	16,525名

平成29年3月期の配当について

1株あたり配当金 → 普通株式 期末 6円00銭

株主メモ

事業年度	毎年4月1日～翌年3月31日
剰余金の配当基準日	3月31日（中間配当を行う場合は9月30日）
定時株主総会	毎事業年度が終了した日の翌日から3か月以内に開催
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
公告方法	電子公告（https://www.kyushu-fg.co.jp/） ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、 熊本日日新聞および南日本新聞ならびに日本経済新聞に掲載いたします。

	証券会社等に口座をお持ちの場合	証券会社等に口座をお持ちでない場合（特別口座の場合）
郵送物送付先	お取引の証券会社等になります。	〒168-8507　東京都杉並区和泉2-8-4　みずほ信託銀行株式会社　証券代行部
電話お問い合わせ先		フリーダイヤル　0120-288-324（土・日・祝日を除く9:00～17:00）
各種手続お取扱店（住所変更、株主配当金受取り方法の変更等）		みずほ証券株式会社　本店および全国各支店 プラネットブース（みずほ銀行内の店舗） みずほ信託銀行株式会社　本店および全国各支店 ※トラストラウンジではお取り扱いできませんので、ご了承ください。
未払配当金のお支払	みずほ信託銀行株式会社および株式会社みずほ銀行の本店および全国各支店 （みずほ証券株式会社では取次のみとなります）	

※ 特別口座では、単元未満株式の買取・買増以外の株式売買はできません。証券会社等に口座を開設し、株式の振替手続を行っていただく必要があります。

上場株式配当等の支払に関する通知書について

支払通知書の法定要件を満たした配当金計算書を同封しておりますので、確定申告の添付書類としてご使用ください。
なお、配当金を株式数比例配分方式によりお受け取りの場合、源泉徴収税額の計算は証券会社等にて行われますので、確定申告の添付書類としてご使用いただける支払通知書につきましては、お取引の証券会社等へご確認ください。

Kyushu FG

九州フィナンシャルグループ

肥後銀行

HigoBank

鹿児島銀行

Kagoshima Bank